

# 繊維の歴史書「技術が支えた日本の繊維産業」発売

日本の繊維産業の成り立ち、繊維産地の形成、流通業（問屋・商社）、主要企業の歴史紡績（絹、綿、毛など）、合繊、織物、ニット、染色業、アパレル産業、主要企業の歴史アパレル（婦人、紳士、シャツ、ジーンズ、スポーツウエア、ニット製品など）の変遷

## 繊維学会誌の100回の連載をまとめた歴史書

繊維・アパレル産業全体を網羅した歴史書です。著者が2013年9月～2022年1月まで8年4カ月、毎月連載した「技術が支えた日本の繊維産業—生産・販売・商品開発の歩み」をまとめた歴史書。A4判、上巻514頁、下巻497頁、巻末に年表

## 繊維・アパレル産業全体を網羅した産業史

わが国の繊維産業史は日本繊維協議会が1958（昭和33）年に発刊した「日本繊維産業史 総論・各論」があります。以後、紡績、合繊、全国の繊維産地、繊維企業の社史などの歴史書はありますが、主要産業、産地、繊維・アパレル製品など全体を網羅した初の歴史書になります。とくに1970年代以降の歴史に詳しく触れています。

繊維業界の現況、将来を勘案すると「産業全体を網羅した最初で最後の歴史書になる」とも言われています。

「過去の出来事から得る教訓は多い」「歴史は未来の指針」

巻頭言：日本繊維産業連盟 鎌原正直会長、

繊維学会 荻野賢司会長

「戦後数十年の興亡の歴史から、多くの示唆、ヒントを学び、それらを生かしていくことが大切」  
「繊維産業全体を網羅した歴史書は他に見当たりません。購読を勧めます」

### 「技術が支えた日本の繊維産業」



著者・松下義弘 略歴

1970年 繊維研新聞入社

（合繊、紡績、染色、産地、商社、アパレル担当）

2008年 繊維研新聞退社

京都工芸繊維大学繊維科学センター

（特任教授、シニアフェロー、現非常勤講師）

2010年 日本繊維技術士センター（JTCC）客員

2012年 繊維・未来塾を立ち上げ、幹事就任

2017年 日本繊維機械学会フェロー

2022年 繊維学会功績賞受賞

## 繊維・未来塾の事業として発売

繊維・未来塾 2012（平成24）年5月、繊維産業活性化、次世代を担うリーダー達の実学、交流の場として設立。山形から広島、今治まで全国の繊維産地の拠点を置く織物、ニット、染色加工など繊維川中およびアパレル企業の経営者らで構成（繊維・未来塾は日本繊維機械学会が運営）。

「技術が支えた日本の繊維産業」は繊維・未来塾の事業として発売するものです。

## 「技術が支えた日本の繊維産業」目次

	主な内容		主な内容
1	戦前編I、殖産興業で紡績業発展(上)	54～60	「問屋、商社の繊維工業進出」三井、三菱、鈴木商店、伊藤忠、丸紅、三綿、関西5綿、船場8社、兼松、鉄鋼系商社、近江商人、名古屋・一宮の問屋
2	戦前編I、殖産興業で紡績業発展(下)	61～64	「アパレル編」 1 軍服・制服の洋装化、アイテム別動向、洋裁・手芸・編物の普及
3	戦前編II、レーヨン工業の発展	65～66	第二次大戦後の織物産地の復興 綿スフ織物の動向
4	戦前編III、繊維機械の発明・改良	67～69	「合繊織物産地の発展」ナイロン、トリコット、ストッキング、ポリエステル
5	戦後編IV、戦後の紡績復興	70～71	第二次大戦後の尾州産地 毛織物産業
6	レーヨン工業の復興・発展	72～75	「素材メーカーの製品戦略」 綿紡、合繊編
7	合成繊維の工業化・発展	76～88	「アパレル製造卸」 戦後の発展、婦人子供服、繊維商社、新興アパレル、デザイナー、子供服、肌着、ランジェリー・ファンデーション、シャツ・ユニフォーム、スポーツ用具、用品（ウエア）、海外ブランドの導入
8～13	「化合繊工業の歩み」ビニロン、アセテート、ポリウレタン、ナイロン、アクリル、ポリエステル。シルキー合繊、新合繊、ポリ長戦争	89～93	「商社の変遷」進む再編 業態変化、総合商社の繊維事業、繊維専門商社、メーカー商社、産元商社、商社の素材開発、服地卸の繁栄、衰退、転換
14～17	「綿紡織業の盛衰」戦後の再建、70年代に転換点、シャツ、ニット、デニム、差別化糸、人に優しい商品開発	94～98	「繊維産地の盛衰」戦後の復元、北陸、浜松、尾州、五泉、栃尾、タオル、毛布、パイル、靴下産地、綿織物、毛織物、ニット産地、産地ブランド、産官学の取組み、繊維ビジョン、ジャパンクリエーション、自立事業、ブルミエールヴィジョン、川下へOEM時代、主要企業の動向
18～21	「羊毛産業の盛衰」戦後の再建、得意分野明確に、天然繊維時代、路線転換、新世代ウール、機能商品、梳毛、紡毛紡の動向	99	「繊維技術・商品開発の歩み」生産再開、糸、織物の品質向上、更生服から洋装化、合繊技術の発展、複合糸、新加工広がる、スーパー繊維、健康・快適性の追求、新合繊登場
22～30	「染色加工業の盛衰」綿、毛、化繊の染色業、戦後の復興、綿、化合繊の染色加工、捺染業の発展、差別化加工の開発、大手染工場の動向、毛織物、糸染業、インクジェット捺染	100	「繊維企業・繊維産業変遷」工場復元、合繊産業が急成長、流行を創り出す、海外技術導入、海外進出、業界再編成、円高・輸出入逆転、繊維生産縮小
31～53	「繊維産地の盛衰」麻、絹織物産地、西陣、桐生から各地へ、生糸、製糸業、絹紡糸、羽二重は桐生から福井へ、絹織物の染織技術、人絹織物業の発展、綿紡績、綿・絹織物産地の発展、毛紡績の毛織物業、ニット産地、産地での織機開発	番外	繊維技術史年表 — 生産・販売・商品開発の歩み —

【申込先】 北斗書房 E-MAIL: info@hokutoshobo.jp FAX: 075-791-7290 (2023年1月10日から開始)

【振込先】 金融機関名・郵便局: 口座番号 00970-4-47841 加入者名: 北斗書房

(ゆうちょ銀行 ゆうちょダイレクトをご利用の場合: 当座〇九九店 47841)

お振込み金額は1万6500円(本体価格1万5000円+税1500円)

【問合せ先】 松下義弘 電話 090-6203-4648

メールアドレス matsu2256@jttk.zaq.ne.jp